

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：34417

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K24182

研究課題名（和文）心身に障害のある子どもの力を育む看護師の多職種チームによる発達支援とそのプロセス

研究課題名（英文）Developmental Support and Processes of nurses with multidisciplinary team that nurturing the strength of children with severe disabilities

研究代表者

石浦 光世（Ishiura, Mitsuyo）

関西医科大学・看護学部・講師

研究者番号：40846424

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：対象者と研究方法：児童発達支援を利用している心身に障害のある幼児期の子ども6名と親への支援について、看護師3名を対象に半構造化面接を実施し、記述的質的研究を行った。

結果：看護師は子どもの健康と生活を維持しながら楽しめるように調整を行い、その中で子どもの理解を深める「健康を維持し経験に導く基盤づくり」をチーム内での役割の中心におき、その中で「子どもに合わせた参加や生活の拡大につながる目標設定」をしていた。そして、子どもの意思表示の幅が広がる、基本的な生活スキルを獲得できる、親が養育力を高めることにより「子どもの自立の可能性を伸ばす支援」を他職種からの助言やチームの話し合いにより行っていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

障害のある子どもが現在、将来に向けて主体的に日常生活を営むことができるための児童発達支援事業において、看護師が担う具体的な発達支援の内容は明らかにされていない。多職種チームアプローチにより遂行される児童発達支援において、看護師は心身に障害のある子どもの発達支援に関する明確な役割意識と具体的な方策を身に着けた専門職としての役割の発揮が求められる。看護師による発達支援は、「健康と生活」の領域において子どもの遊びの環境を調整する中心的役割の遂行と、他職種からの助言や意見交換により子どもの表出や生活力を伸ばし、親・養育者のもっている力を高めていく多職種協働型支援であることが分かった。

研究成果の概要（英文）：Subjects and Research Methods：We conducted semi-structured interviews with 3 nurses who careing the development support of 6 children in early childhood with physical and intellectual disabilities. We analysed the interview data qualitatively and inductively.

Results：The main role of the nurses in the interdisciplinary team was to 'maintain the children's health and create a foundation for them to experience'. The nurses worked to improve the children's health and lifestyle, and deepened their understanding by interacting with the children. The nurses then 'set goals for participation and lifestyle expansion tailored to the child'. Then, through advice from other professions and team discussions, the nurses provided support to 'develop the child's potential for autonomy', such as increasing the child's self-expression, acquiring basic life skills, and improving the parenting skills of the parents.

研究分野：小児看護

キーワード：児童発達支援 障害 幼児期 親 看護

## 1. 研究開始当初の背景

心身に障害のある子どもが「安心・安全・安楽に、楽しく」充実した毎日を過ごし、将来にわたり日常生活や社会生活を円滑に営んでいくために、支援者は子どもの障害の状態及び発達の過程・特性等に十分に配慮しながら、子どもの成長を支援する必要がある。障害のある子どもおよびその家族に対して質の高い児童発達支援を提供するため、「児童発達支援ガイドライン」が策定されている<sup>1)</sup>。看護師は子どもの成長発達および健康を支え、家族全体の生活を守るために、子どものもつ力に着目した支援が求められる。しかし、児童発達支援における役割は定められておらず、子どもの生活や遊びが主となる場での看護経験の浅い看護師は、子どもの思いに沿ったケアの困難感や、児童発達支援における実践内容の不明瞭さから役割遂行に悩むことがある。児童発達支援における看護は、学校教育の場における看護との共通点も多い。特別支援学校における多職種チームアプローチは、対象となる子どもの課題や目標を共有し、役割分担したり、ともに取り組むことで共通理解が得られ、より良い支援に発展し続けるものである<sup>3)</sup>。これらの取り組みは、病院で看護師が医師や他の専門職と共に取り組んできたことと本質は同じである<sup>2)</sup>。しかし、学校看護師は役割遂行への戸惑いや混乱が生じやすく<sup>5)</sup>、多職種との連携の困難感がある<sup>4)</sup>との報告がある。一方で、障害のある子どもへのケアを通じて成長・発達を実感したり、教員ら関係職種との連携を通じて看護師の存在意義が認められることで、学校での看護にやりがいを持つようになり、責任や役割を自覚し、実践につなげていることが明らかにされている<sup>5)</sup>。

以上のことから、看護師は心身に障害のある子どもの発達支援において、「今、どのような支援が必要なのか」「多職種チームアプローチによる発達支援とはどのようなことか」という明確な役割意識と具体的な方策を身に着けていくことが大切であると言える。本研究結果から、看護師は児童発達支援の場において、多職種チームアプローチの中での看護の役割を明確にすると共に、チームの中での看護の専門性を向上することができる考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は「看護師が心身に障害のある子ども一人ひとりのもつ力を引き出し育てるために、児童発達支援の場で子どもの状況を身体、精神、社会的側面から多角的にアセスメントし、必要となる支援を判断し支援すると共に、そのプロセスにおいて多職種チームと連携/協働しながら実践する」という看護師が行う児童発達支援の具体的内容とそのプロセスを明らかにすることとする。

## 3. 研究の方法

1) 研究デザイン 探索的記述的質的研究を用いた。

2) 用語の定義

本研究における心身に障害のある子ども、および発達支援の定義は以下の通りである。

\* 心身に障害のある子ども：児童発達支援事業を利用している知的障害および肢体不自由を重複している子ども。疾患の種類や重症度および医療的ケアの有無は問わない。

\* 発達支援：「児童発達支援ガイドライン」(厚生労働省, 2017)に基づき、「障害のある子どもが日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするものであり、家庭や地域社会での生活に活かされるために行われ(本人支援) 保育所等に引き継がれていくもの(移行支援)」とする。本人支援は「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・

社会性」の5領域にまとめられる。

### 3) 研究協力者

研究協力者は以下の通りである。

児童発達支援事業(1施設)を利用し、週1回以上の定期的な通園が可能である心身に障害のある幼児期のこどもとその親

同施設内の児童発達支援事業に勤務する看護師とした。

### 4) データ収集方法

データ収集期間は2020年10月から2021年7月である。こどもの発達支援による発達の变化をとらえるため、のこどもの児童発達支援の場に通園している際の遊びや食事などの活動における看護師のかかわりの場面の動画および写真、および個別支援計画を基に、半構成インタビューガイドを作成し、2020年10~12月と約半年後の2021年6~7月の2回に分けての看護師からこどもと家族への発達支援に関する面接調査を実施した。面接回数はいずれも6回(1回60分~90分)であった。

### 5) データ分析方法

得られたデータは質的帰納的分析方法を用いた。録音したデータを逐語録にして精読し、看護師がとらえたこどもの経時的な発達および発達支援に関する内容の理解を深めた。その上で、ケース毎のこどもへの発達支援の内容を文脈ごとにとらえてその意味を生成し、類似した発達支援の内容からカテゴリーを抽出した。生成されたカテゴリー間の関係性を検討し、発達支援のプロセスを導きだした。

### 6) 倫理的配慮

本研究は研究者の所属機関および研究協力施設の倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号)。こどもの親および看護師に対して、本研究への参加にあたり、研究目的および具体的な方法、結果の公表および研究協力の自由意思といつでも中止ができる事について、文書および口頭で説明を行い同意を得た。こどもには研究依頼者が口頭で説明を行った上で、看護師が行う写真や動画撮影に対してこどもへの負担やいつもと違う様子がみられるなど、こどもに不利益を及ぼすことがあれば速やかに中止し、こどもに負担が生じることがないように依頼した。また、写真や動画は看護師へのインタビュー終了後に削除した。

## 4. 研究成果

### 1) 研究協力者の概要(表1)

研究協力を得た児童発達支援に通園している重度の障害のある幼児期のこどもとその親は6組であり、こどもの年齢は5歳児3名、2歳児2名、3歳児1名であった(表1)。

表1 研究協力者(こども)の概要

こども	年齢	主要な症状	特記事項
Fさん	5歳	強い筋緊張 経管栄養	・筋緊張によりSpO2が著明に低下 ・経口摂取少量、排便コントロール要 ・並行通園
Gさん	5歳	気管切開 喀痰吸引 経管栄養	・段階的に経口摂取可能となる、水分摂取少量 ・四つ這い移動、つかまり立ち ・並行通園
Hさん	3歳	うつ熱	・左記により通園開始に時間を要した

		嘔吐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食形態調節中</li> <li>・座位保持可能</li> </ul>
Iさん	2歳	てんかん発作、眠気強い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記により活動への影響が大きい</li> <li>・座位保持可能</li> <li>・並行通園</li> </ul>
Jさん	2歳	視力障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目を強く抑える行動がみられる</li> <li>・分からないことへの混乱</li> <li>・親・きょうだい支援</li> </ul>
Kさん	5歳		<ul style="list-style-type: none"> <li>・経口摂取への移行完了</li> <li>・ずり這い移動、姿勢調節</li> </ul>

また、同施設内で児童発達支援事業に携わる看護師3名(A,B,C)の協力を得た。A看護師は児童発達支援センター(母子通園)、B・C看護師は児童発達支援事業所(単独通園)に勤務し、看護師経験年数は平均31.7年、児童発達支援事業における経験年数はそれぞれ8年、5年、3年であった。

## 2) 看護師が行う発達支援の内容(表2)

児童発達支援の場において、看護師は【こどもの健康を維持し経験につなげる基盤づくり】を発達支援の軸として【こどもに合わせた参加や生活の拡大につながる目標設定】を行い、【こどもの自律の可能性を伸ばす支援】を行っていた。

表2 看護師が児童発達支援において行う発達支援の内容

発達支援の内容	カテゴリー	サブカテゴリ
こどもの健康を維持し経験につなげる基盤づくり	こどもの健康・生活・発達を俯瞰し登園につなげる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康状態を見極め登園に導く</li> <li>・治療とのバランスを検討する中で発達支援を重視する</li> </ul>
	こどもの健康・生活状況に基づく安楽に導く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の健康状態や生活パターンをとらえる</li> <li>・苦痛がないようにする</li> <li>・生活リズムに合わせる</li> </ul>
	こどもが楽しめるように調整する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの機会を逃さず共に楽しむ</li> <li>・こどものペースで好きなことに導く</li> </ul>
	相互交流を通してこどもの理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの特性をとらえる</li> <li>・こどもの意思表示を待つ</li> <li>・こどもの意思を読み取る</li> </ul>
こどもに合わせた参加や生活の拡大につながる目標設定	参加の障壁となる状況をとらえる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加が困難な心身機能をとらえる</li> </ul>
	生活の拡大につながる課題を明らかにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の健康状態を保つ</li> <li>・器具に慣れるようにする</li> <li>・生活の場を拡げていく</li> </ul>
こどもの自律の可能性を伸ばす	こどもの外への関心事の高まりをとらえる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの関心事の芽生えをとらえる</li> </ul>

支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>・防衛反応を開放できるようになった様相をとらえる</li> </ul>
	意思表出の拡がりを促す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの新たな表出に応答する</li> </ul>
	基本的な生活スキルの獲得を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもができる日常生活動作（ADL）を増やしていく</li> </ul>
	親の養育力をとらえて協働する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困難に直面する親を支える</li> <li>・こどもの健康と生活を整える方法を共有する</li> <li>・こどもの発達につながる方策を助言する</li> <li>・こどもの社会が広がっていくように後押しする</li> <li>・親の養育力の向上をとらえて見守る</li> </ul>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石浦光世
2. 発表標題 心身に障がいのあるこどもが日常生活を営むために 看護師が行う発達支援のプロセス
3. 学会等名 第32回日本小児看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------